

教育課程と学校事務職員の関わり

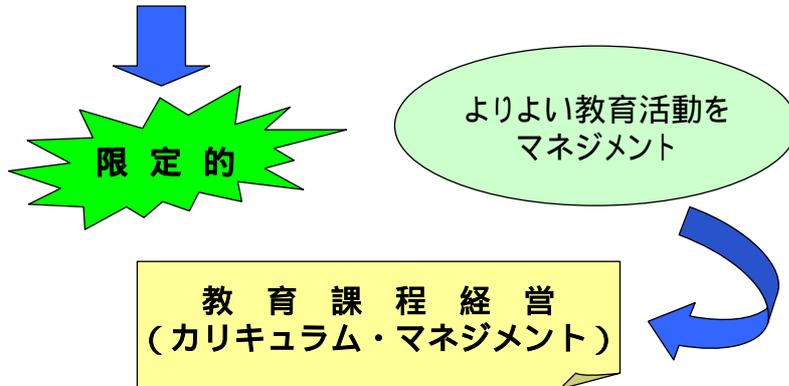


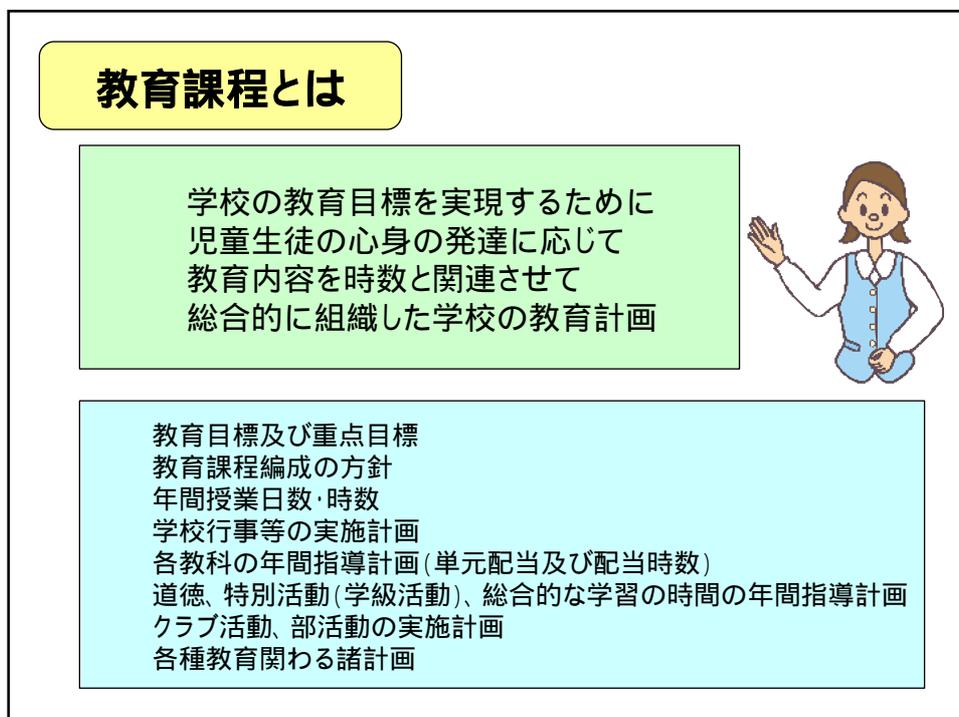
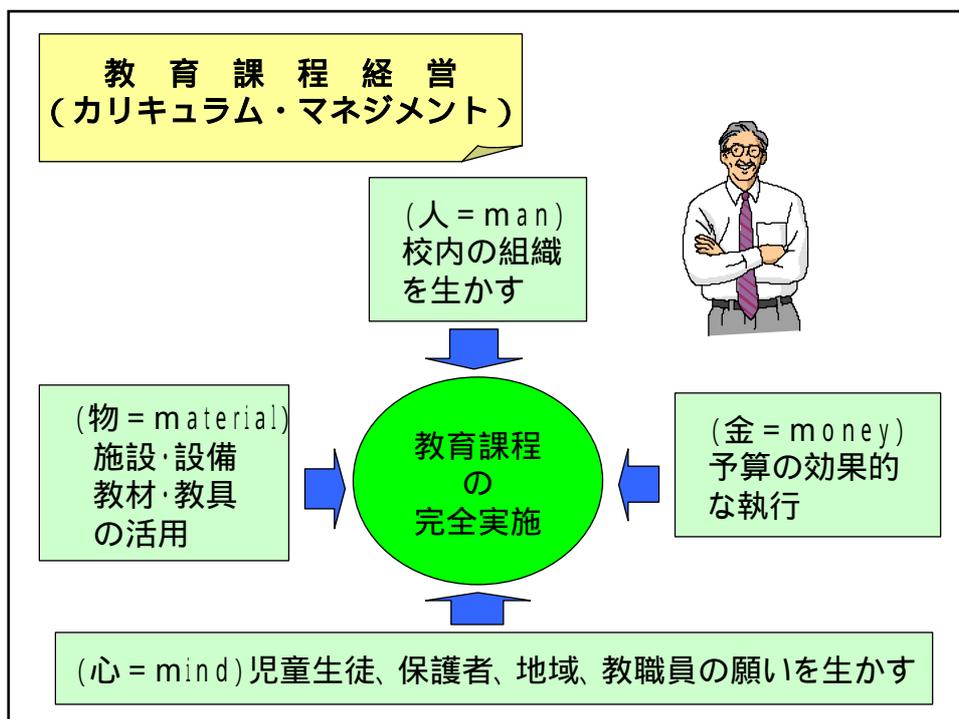
福島県教育庁教育指導領域学習生活指導グループ
主任指導主事 吉田 尚

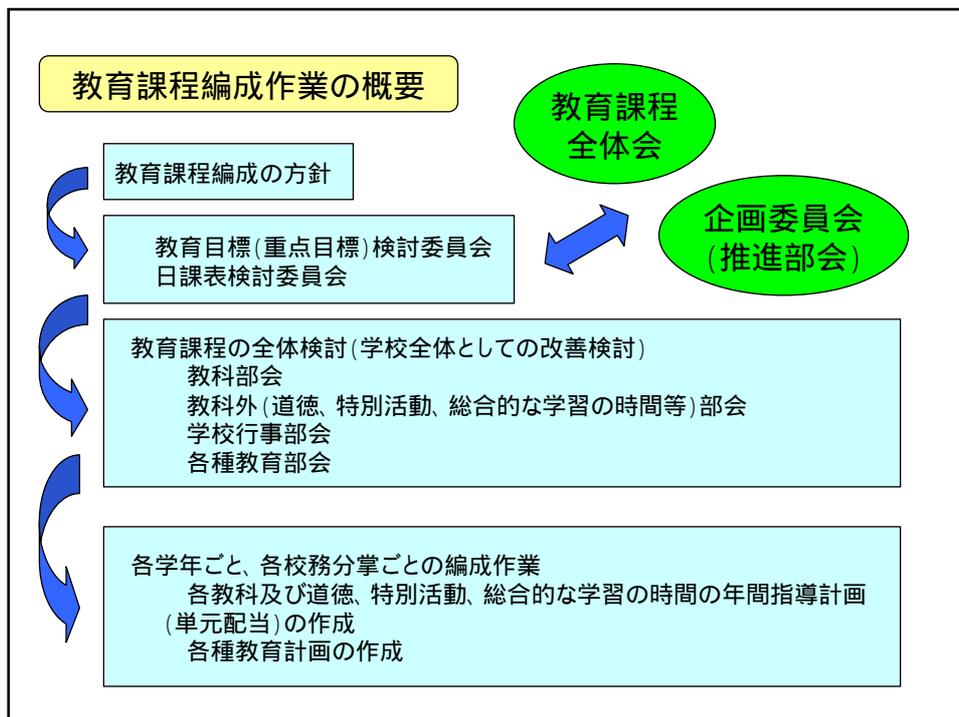
なぜ、学校経営との関わりではなく教育課程との関わりなのか？

学校経営……

人(人事)・物(施設・設備・教材教具)・金(予算)をマネジメント







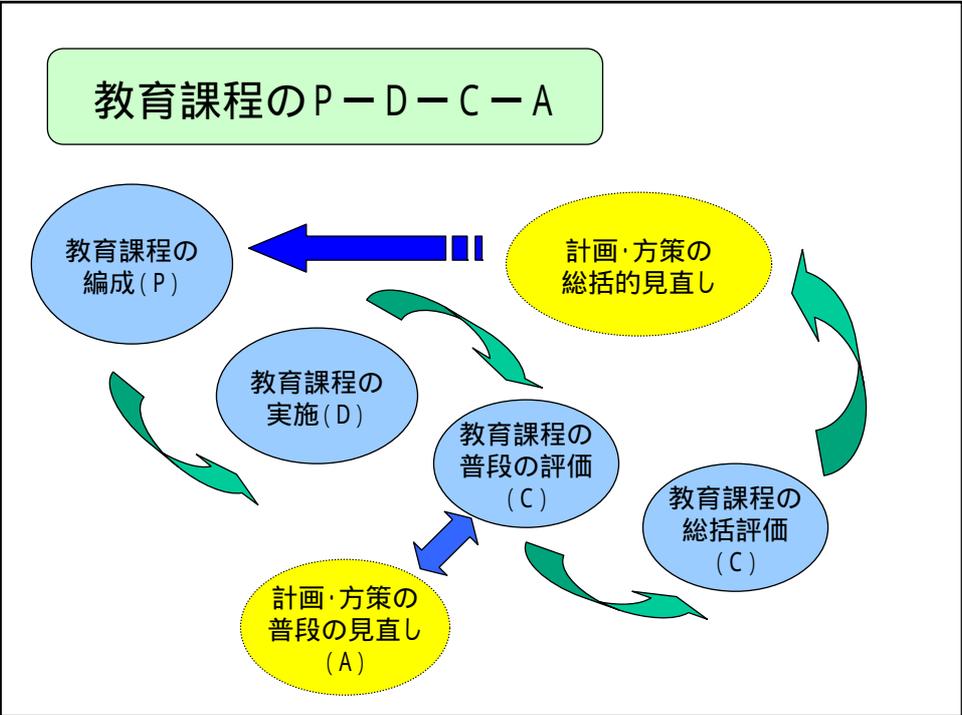
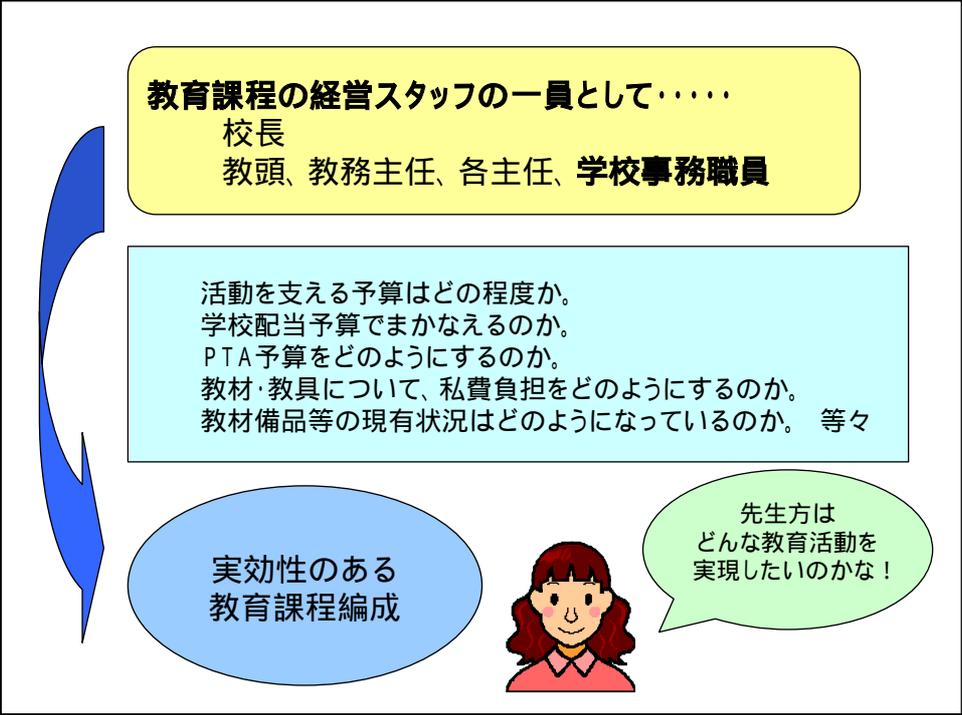
学校事務職員は教育課程編成にどう関わっているか！

**予算的な裏付けのない教育課程を
編成していないか！
(絵に描いた餅の教育課程編成)**

例えば……

- 体験的な学習を重視するために、校外での活動を組み入れたい。
- 外部講師を招いて、専門的な見地からの話を聞かせたい。
- 学校図書館を充実し、授業での効果的な活用を図りたい。
- 児童生徒の興味・関心を高めるために、新たな教材を使った指導を行いたい。
- 学力向上のために、毎日10分間の基礎学力向上タイムを設けたい。

等々



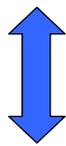
教育課程の編成 (P)

法令や学習指導要領の遵守
自校の教育課題の明確化
自校のグランドデザインに基づく特色ある教育課程

教育課程の実施 (D)

ねらいを明確にした教育活動
教育課題解決のための一貫性のある指導
児童生徒、教職員、学校、地域社会、家庭等のよさを生かした教育活動

教育課程の普段の評価 (C)



教育活動に対する日常的な反省・評価
学期毎の教育課程の実施状況の評価

計画・方策の普段の見直し (A)

反省・評価に基づく指導の工夫・改善
教育課程運営・実施の工夫・改善

教育課程の総括的な評価(C)

教育課程実施に関わる評価の累積
評価資料の収集と検討・分析
問題点の整理とその背景の明確化
改善策の立案

- ・ 比較的直ちに修正できるもの
 - ・ 長期的見通しの下に改善を図っていくもの
- 次年度教育課程編成の適切な編成へ

学校評価ガイドライン
(平成18年3月)

学校の自己評価の
結果について、外部の
評価を受ける。

教育委員会からの指摘



苦勞して確保した学校予算が、なかなか執行されていない。

光熱水費があまりにも多くかかり過ぎている。

備品等の廃棄を簡単に考えていないか。

高価な教材・備品等が埃をかぶっていないか。

コピー代が予算額を大幅に超過している。 等々

この指摘をどう受け止めるか！

先生方に危機意識をもって受け止めてもらうには……………。

教育課程の実施・評価にどう関わるのか。

学校予算の適正かつ効果的な執行がなされているか！

予算に関わる検討が
可能となる組織の必要性
・ **校内予算検討委員会等**
の設置
(予算配当、教材・備品等
の購入計画、予算上の
課題 等々)

予算に関わる検討事項の企画委員会等への提案

効果的な予算執行を促進するための事務だよりの発行

予算執行等に関わる職員会への積極的な提案

校長、教頭、教務主任等との関わり

よりよく自校の教育課程に関わるために



学校は児童生徒のためにある

- ・ 子どもたちの学習活動がより効果的に行われるために、予算の執行等をどうすればより良くなるかを常に考える。
- ・ 校長、教頭、各主任とともに教育課程経営のスタッフとしての意識を持ち、実践する。
- ・ 教育課程の完全実施に向けて、学校予算を適正かつ効果的に執行できるようコーディネートする。

学校事務職員としての「見る」を大切にする

- ・ 学校予算をあずかるものとしての眼を大切にし、気づいたことを具体的な改善に移すアクションを起こす。

新しい教育の動向に目を向ける

- ・ 教育課程についての確かな理解に基づく実践を行う。

教育の動向

新教育基本法 改正学校教育法



教育基本法 第2条 教育の目標（今日重要とされる事柄）

「豊かな情操と道徳心」「健やかな身体」「自主及び自律の精神」「勤労を重んずる態度」「男女の平等」「公共の精神」「環境の保全」「伝統と文化の尊重」「我が国と郷土を愛する態度」「国際社会の平和と発展に寄与する態度」

学校教育法 第30条 第2項（小・中・高の学力観）

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならないものとする。

学習指導要領改訂前夜

「生きる力」の育成など
理念は継承

本年度中には、新しい学習指導要領が示される予定！？

小学校

中学年、高学年での授業時数の増加。

高学年で外国語活動が新設

総合的な学習の時間の授業時数の減。

基本教科、体育の授業充実 など

中学校

全学年で授業時数の増加

基本教科、保健体育の授業充実

総合的な学習の時間及び選択教科の授業時数減 など



学習指導要領の改訂に伴って

- 新たな教材・教具の整備
- ・ 小学校の外国語活動の新設
 - ・ 理科の学習内容の改編
 - ・ 体育の充実
 - ・ 教科書の改訂 等々

基礎的な知識・技能を活用する力の育成

体験活動の重視

特色ある教育活動の更なる展開 等々

主体的に教育課程経営に参画するために

組織マネジメントの手法を活用して

SWOT分析の導入

学校のミッション(使命)をもとに、学校事務職員自らが課題解決に向けた新たな方策や活動を生み出していくことができる。



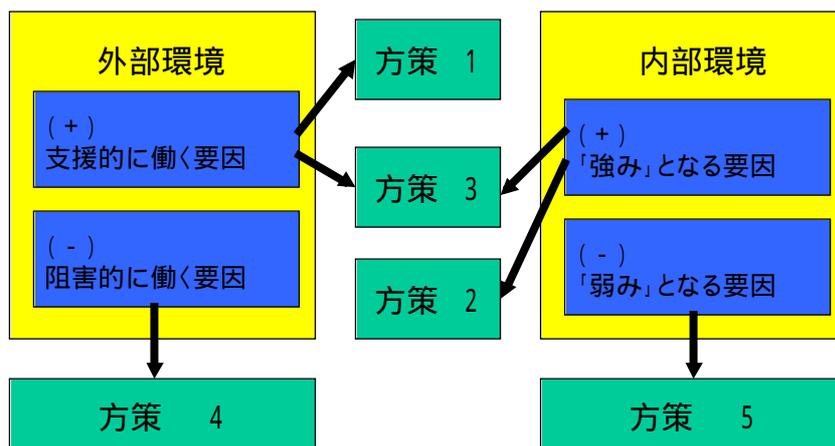
教育課程経営への参画意識を高め、主体的に教育課程の編成・実施・評価等に取り組もうとする意識の高揚



SWOT分析とは・・・

SWOT分析とは、学校内外環境のうち、外部環境の要因を「機会(支援的に働く場合・場面)」と「脅威(阻害的に働く場合・場面)」に分類し、内部環境の要因を「強み」と「弱み」に整理した上で、「機会」と「強み」を中心に把握・分析し、特色のある方策・教育活動を生み出す手法である。

【外部環境】	【内部環境】
機会 (支援的に働く要因)	強み
脅威 (阻害的に働く要因)	弱み



方策1: 外部環境で支援的に働く要因を生かした方策

方策2: 内部環境で強みとなる要因を生かした方策

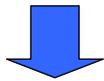
方策3: 外部環境で支援的に働く要因と内部環境で強みとなる要因を生かした方策

手順

外部環境を支援的に働く要因と阻害的に働く要因とに整理する。

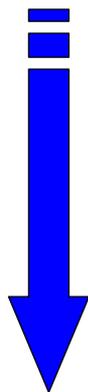


内部環境を強みとなる要因と弱みとなる要因とに整理する。



方策1～方策3について、ブレインストーミング及びKJ法の手法を使って考える。

事務職員として、効果的な教育活動が展開出来るようにするための方策を考える。



ブレイン・ストーミング法

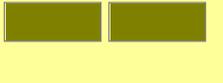
付箋紙に考えられる方策を書き出す。

K・J法による類型化

書き出された方策を分類し整理する。

「解決策マトリックス」を活用し、取り組む方策を絞り込む。

「解決策マトリックス」の活用

	効果性大 ←————→ 効果性低い		
着手容易 ↑ ↓ 着手困難			
			
			

学校事務職員の「職の確立」
のために……

子どものためになにができるか
カリキュラム・コーディネーターと
して
連携・協働(参画意識)

がキーワードになるのでは……?

